

令和四年度 近畿税理士会会長賞

庭で見つけた日本のカタチ

奈良女子大学附属中等教育学校 三年 間崎 芽夢

私の母は家庭菜園をやっている。キュウリ、トマト、いちご。食べ物だけではなく、花も沢山。毎週のように近くのホームセンターへ行っては苗を買ってきて、気付けば二、三時間ずっと土を触っている。真っ暗になっても庭から帰って来なかったり、汗だくになりながらもずっと楽しそうにやっていたりした。「何がそんなに面白いのだろう。」そう思っていたある日、大きくてみずみずしいキュウリができた。そのキュウリを一口食べて、驚いた。いや、驚きを超えていた。私が食べてきたキュウリ至上、ぶち切りで美味しかった。そんな出来事をぼんやり考えていたら、突然思いついた。「これって税と似てるかも。」習慣的に水をやって土をいじっていたら、いつの間にか大きくて立派なキュウリができた。そのキュウリは私を笑顔にさせた。消費税、固定資産税、所得税。習慣的に払っていたこれらの税は、めぐりめぐって私たちの生活をより豊かにしている。

例えば、119番通報すればすぐに救急車が来ること。図書館では無料で本が借りられること。震災などで被災してしまっても支援してもらえること。これらは私たちの身近にあるが、全くもって当たり前のことではない。税は社会の質をより良くしている。

一方で、こんなこともあった。庭で育てていたミニトマトが小鳥に食べられてしまったのだ。これも実は税と似ていると思う。ニュースなどでよく見る、脱税や税金の横領だ。他の鳥たちはなんとか自分で虫をつかまえて食べているのに、ミニトマトを盗んでく小鳥がいる。目先の利益のために、本来納めるべき納税額をごまかしたり、集めた税金を自分のものにしてしまったりする人がいる。そんなことばかりが続けばいずれ社会は成り立たなくなってしまうだろう。意外にも私の庭には税に見立てられるものがゴロゴロ転がっているのかもしれない。

二〇一九年、消費税が8パーセントから10パーセントに引き上げられた。その時私は、とても損したような気持ちになっていた。百均のものは今まで百八円で買っていたのに、これからは百十円になってしまう。たったの二円。けれども、「ちりも積もれば山となる」2パーセントがとても大きく感じられた。しかしそれは国からしても同じことが言える。一人二円でも日本国民全員から集めれば約二億円。私のたった二円で今より少し便利な世の中になると考えたら、消費税増税に対しての損した感覚も無くなっていた。それに気付いた時の私は笑顔だった。

私の家の庭が緑でいっぱいのように、税で笑顔になれる人がいっぱいいる、そのような正しく税が国民に還元される社会になればいいなと思う。